

持病ある女性の妊娠支援



プレコンセプション外来を担当する
吉田医師＝徳島市の徳島大学病院

同院によると、持病がある女性が治療などの準備を十分しないまま妊娠した場合、症状が悪化して入院したり、早産したりする恐れがある。投薬が胎児に影響することを心配して自己判断で服用するのをやめ、病状がさらに悪くなる場合もある。

（新居和人）

また、今月分は既に埋まっている。

プレコンセプション外来を担当する吉田あつ子医師は「妊娠前から持病や妊娠への理解を深め、心身とも準備しておくことが大切。母子ともに、より安全に出産できるように各診療科の医師と協力し、寄り添っていききたい」と話している。

持病がある女性が安全に妊娠・出産できるようにするため、徳島大学病院は6月から相談窓口「プレコンセプション外来」を開設している。妊娠前に産科婦人科の医師が病状に応じて適切なアドバイスや治療を行い、母子のリスク軽減を図る。

徳大病院が専門外来

治療調整や分娩方法助言

対象は高血圧や糖尿病、肥満、心臓の病気などの持病がある女性と家族。早産や多量出血など過去の妊娠でトラブルが起きた場合も受け付ける。医師が病気や治療の状況を聞いた上で妊娠・出産への影響を判断し、妊娠に適した時期、治療や投薬の調整、無痛分娩や帝王切開といった分娩方法を助言する。

胎児に与える危険性も指摘されている。糖尿病の場合、妊娠初期に血糖コントロールが十分でないと、先天性疾患のリスクが高くなる。高血圧の薬の中には、胎児の腎機能に影響するものもある。

持病があつて妊娠を考える女性が、同病院内の他の診療科から産科婦人科に紹介されるケースは年々増加しているという。確認できているだけで2022、23両年は3件ずつだったが、24年は7件、今年は5月末までに6件あった。

徳島新聞令和7年7月11日掲載
コピー、転載禁止